

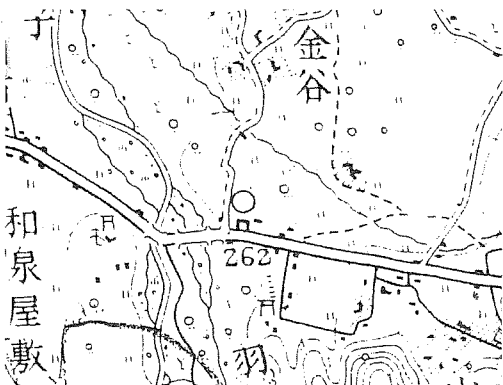
吾孀橋の図（高橋由一画：山形大学附属博物館蔵）

萬世の大路

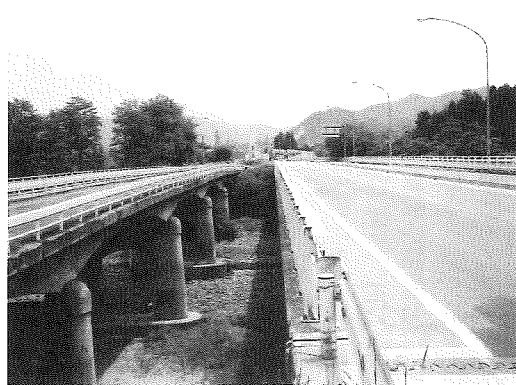
第4号
平成20年2月27日発行

発行者
歴史の道万世大路・万歳の松保存会
会長 田畑 實

事務局
万世コミュニティーセンター
☎0238-28-5381



明治41年測量、昭和6年調整地図



現在の万世橋
山形大学附属博物館50周年記念誌「明治の記憶」より

吾孀橋と万世橋

万世大路が羽黒川を渡るために、明治十一年に架けられたのが吾孀橋である。

この図で見られるように木の橋で、大層立派なものであった。当時の県令三島通庸は、「土木県令」とも称され、特に道路の開削に力を入れた。明治政府に課せられた近代国家建設の第一歩であった。道路建設の推進には地元の協力も強制的に要請されたため反発もあった。「鬼県令」とも言われたゆえである。立派な橋の建設は民意を和らげるためとも言われた。

羽黒川は暴れ川で大水が出ると流れが変わる。現在の流れの前は、ビッキ石のふもとから自動車練習場の東端を流れていた。ここを境に桑山と片子の地名が付けられている。現在の川東の地名が片子となっているのはそのためである。

明治に架けられた橋は中州を通って三本あったことが古い地図で確認できる。

昭和十二年の改修で万世橋として、コンクリート橋に架け替えられた。自動車を通る橋として建設されたため高くなったので、片子側は急な長い坂道となった。

現在は三代目の橋である。